


笠木 哲也

KASAGI, Tetsuya



准教授

所属…環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻

✉ kasagi-t@kankyo-u.ac.jp

Profile

主な担当科目	生態学基礎, 植物学概論, 生態系サービス論
研究者略歴	
1992 (平成 4) 年 3月	宇都宮大学農学部卒業
1992 (平成 4) 年 4月	(株)カーター・アート環境計画 (現 (株)環境・グリーンエンジニア)
1997 (平成 9) 年 3月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士前期課程修了
2002 (平成14) 年 9月	北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了
2004 (平成16) 年10月	金沢大学地域連携推進センター研究員 (～2015年3月)
2006 (平成18) 年 4月	金沢大学環日本海域研究センター研究員 (～2016年3月)
2007 (平成19) 年 4月	石川県立総合看護専門学校非常勤講師 (～2014年9月)
2013 (平成25) 年10月	石川工業高等専門学校非常勤講師 (～2015年3月)
2015 (平成27) 年 4月	遊学館高等学校講師 (～2016年3月)
2016 (平成28) 年 4月	公立鳥取環境大学環境学部准教授

Research

取得学位	博士 (地球環境科学/北海道大学)
専門分野	植物生態学, 送粉生態学, ハナバチ類
現在の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・植物の繁殖特性と送粉昆虫の行動の関係 ・ハナバチ類の分布と送粉ネットワーク構造 ・シカの食害と森林生態系との関係
所属学会	日本生態学会, 種生物学会, 日本森林科学会

Data

- 研究等活動**
- 【論文】**
- ・外来植物が在来植物とハナバチ類の関係に及ぼす影響. 日本海域研究, 2015. 46: 43-48 (共著)
 - ・加賀地域の標高経度に沿ったハナバチ相の比較. 2013. 日本海域研究, 44: 1-9 (共著)
 - ・能登半島と佐渡島におけるハナバチ類の種組成と分布. 2012. 日本海域研究, 43: 9-17 (共著)
 - ・Habitat-species responses of alpine plants to climate amelioration: comparison of fellfields and snowbed communities. Arctic, Antarctic and Alpine Research, 2011. 42: 438-448 (共著)
 - ・A hybrid zone dominated by fertile F1s of two alpine shrub species, *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica*, along asnowmelt gradient. Journal of Evolutionary Biology, 2008. 21: 588-597 (共著)
 - ・Eight microsatellite markers for sympatric alpine shrubs, *Phyllodoce aleutica* and *P. caerulea* (Ericaceae). Molecular Ecology Notes, 2006. 6: 402-404 (共著)
 - ・Interspecific pollinator movements and heterospecific incompatibility: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* along snowmelt gradients. Evolutionary Ecology Research, 2005. 7: 73-87 (共著)
 - ・Variations in bumblebee preference and pollen limitation among neighboring populations: comparisons between *Phyllodoce caerulea* and *Phyllodoce aleutica* (Ericaceae) along snowmelt gradients. American Journal of Botany, 2003. 90: 1321-1327 (共著)
- 【研究発表】**
- ・ウコギ科カクレミノにおける個葉形質の変異と光環境の関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
 - ・ニホンジカの生息密度と植生被害タイプの関係. 2018. 日本生態学会, 第65回大会 (共同)
 - ・ナラ枯れ後の落葉樹の分布パターン. 2017. 日本森林学会, 第128回大会 (共同)
 - ・ツリフネソウにおける訪花昆虫相の違いと送粉成功の関係. 2014. 日本生態学会, 第61回大会 (共同)
 - ・Comparison of flowering plant-bee linkages between two types of satoyama habitats in Kanazawa, Japan. 2013. Entomological Society of America, Entomology 2013 in Austin (共同)
 - ・農地生態系において外来植物の開花が在来ハナバチ相に及ぼす影響. 2011. 応用動物昆虫学会, 第55回大会 (共同)
 - ・植物群集の開花フェノロジーとハナバチ相の関係に対する外来植物の影響. 2011. 日本生態学会, 第58回大会 (共同)
 - ・Biodiversity and ecosystem in Noto Peninsula: perspectives from satoyama and satoumi. 2010. The 4th International Symposium on Environment of Rim of the Japan/East sea (単独)
- 社会貢献活動**
- ・日本生態学会中国四国地区会/会計幹事 (2018～)
 - ・鳥取県生物学会/講演「花とハナバチの関係から生態系をみる」(2017: 鳥取市)
 - ・鳥取市環境審議会/委員 (2016～)
 - ・白山自然保護調査研究会/幹事 (2015～2017)
 - ・石川県民白山講座/講演「白山の高山植物と花粉を運ぶハナバチ類の関係」(2014: 白山市)
 - ・七尾市・金沢大学連携ワークショップ/講演「熊木川流域におけるハナバチ調査の概要」(2012: 七尾市)
 - ・ニッセイ財団環境問題助成「里山の環境モザイクを活用したハナバチ共生フィールドの創出」/代表 (2010)
 - ・金沢大学「植物スケッチ展」/企画運営 (2008: 石川県立美術館広坂別館)